

<ポイント版> ぎふ経済レポート（令和6年7月分）

【製造業】

- 製造業は、5月の鉱工業生産指数は11.5%上昇となった。ヒアリングでは、中国EV向けの引き合いが減り受注が止まっていたが、今夏より再開したとの声が聞かれた。一方で、大手自動車メーカーの販売計画変更により、利益率の高い部品の生産が減少し、利益率の低い部品を多く生産することになりそうであるとの声や、大口に受注減により売上は減少、コスト高騰と価格転嫁の遅れにより利益も減少しているが、突破口が見つからない状態であるとの声が聞かれた。
- 地場産業は、5月の鉱工業生産指数は、全産業で上昇した。ヒアリングでは、超高級ブランドと価格訴求ブランドとの2極化が進み、中小零細企業は更に厳しくなる見込みとの声や、仕入先の在庫が薄く、商品が売れても、補充する商品が届かない状態にあり、売上は減少傾向であるとの声が聞かれた。

【設備投資】

- 設備投資は、6月の全国の金属工作機械受注額は、前年同月比9.7%上昇となった。ヒアリングでは、受注増加に備え、人材確保とともに、省力化のための設備導入を進める予定との声が聞かれた一方で、導入する機器の価格が高騰していることで、投資タイミングを見送っている企業が多いとの声が聞かれた。

【個人消費】

- 個人消費は、6月の販売額は、全産業で前年同月比で上昇し、全体で同5.5%上昇となった。ヒアリングでは、客数、買上げ点数ともに前年を上回った。各商品を毎月値上げしているとの声が聞かれた一方で、人員不足により休業日を設けている店舗がある影響で飲食全体の売上がコロナ禍前と比較して戻っていないとの声が聞かれた。

【観光】

- 観光客数、インバウンド客の増加等により、観光客数、宿泊者数ともに前年同月と比較しプラスとなるなど、回復傾向にあり、観光客数、宿泊者数ともにコロナ前の約9割まで戻ってきている。宿泊施設からのヒアリングでは、人手不足に苦慮しているとの声が多くあり、外国人人材を活用する施設もあった。

【資金繰り】

- 6月の制度融資実績は、金額で17ヶ月振りに減少となった。人件費を上げざるを得ない事業者の支払い負担増加分についての運転資金需要といった、後ろ向きな利用が見られたとの声や、伴走支援型特別保証制度について、6月の申込は予想に反して少なかったとの声が聞かれた。

【雇用】

- 雇用面は、6月の有効求人倍率は1.53倍と33ヶ月連続で1.50倍を超えた。ヒアリングでは、外国人、中途採用、派遣などを含めて先月から5名採用増としたが、常に人手不足であり解消されないとの声や雇用した人材をいかにして育てていくか、離職率を減らせるかが課題との声が聞かれた。また、正社員に対して一律賃上げを実施したが、パートは上げすぎると所得制限に引っかかり、働ける時間が短くなってしまうので、従業員と話をしながら対応しているとの声も聞かれた。

【景気動向】

5月の景気動向指数（一致指数）は前月比3.1ポイント上昇、5月の中小企業の景況感と同▲8.0ポイントとなった。